

広島商船高等専門学校	開講年度	令和03年度(2021年度)	授業科目	実験実習
科目基礎情報				
科目番号	1952107	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	商船学科(航海コース)	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材				
担当教員	清田 耕司, 河村 義顯, 斎上 敦弘, 大野 遼太郎			

### 到達目標

- (1) 実習内容を理解し、講義で学んだ知識を活用し遂行することができる。  
 (2) 専門科目の概要および基礎知識・技術を習得することができる。  
 (3) 実習内容についてまとめ、報告書(レポート)の作成ができる。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	実習内容を理解し、講義で学んだ知識を十分に活用し遂行できる。	実習内容を理解し、講義で学んだ知識を活用し遂行できる。	実習内容を理解し、講義で学んだ知識を活用できない。
評価項目2	専門科目の概要および基礎知識・技術を十分に理解し習得する。	専門科目の概要および基礎知識・技術を習得する。	専門科目の概要および基礎知識・技術を習得できない。
評価項目3	実習内容を十分に理解し内容をまとめ、報告書を作成することができる。	実習内容を理解し内容をまとめ、報告書を作成することができる。	実習内容を理解し内容をまとめ、報告書を作成することができない。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	本実験実習を通して、船舶職員として必要な知識・技能を身につけ、運用・応用ができるようになる。
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 実習は2班体制で実施する。別途予定表及び班編成表を配布するので、内容を確認の上受講のこと。</li> <li>(2) 実習は各実習設備、練習船広島丸を利用して実習形式で実施する。また必要に応じて資料(自作プリントなど)を配布する。</li> <li>(3) 危険が伴う作業を行際は、安全に十分留意し指導員の指示に従い行うこと。</li> <li>(4) 実験実習は、試験の代わりにレポート及び実習成果物が評価対象となり再試験に類するものはない。</li> </ul>
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 今後学ぶ専門技術の基礎となる科目であるから、実習内容をしっかりと習得する必要がある。</li> <li>(2) 実習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。各自メモをとるなどして主体的に学習すること。</li> <li>(3) 所定の作業服、作業帽、安全靴を着用し、時間厳守で所定の場所に集合し整列しておくこと。</li> <li>(4) 評価方法の「その他」では、授業態度及び積極性を評価する。</li> <li>(5) 実験実習は必ず出席すること。やむを得ない事情での欠席以外、基本的に補講は実施しない。</li> </ul>

### 授業の属性・履修上の区分

<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---

### 授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の安全操作に対する正しい知識を持ち、説明できる。</li> <li>・安全上定められた方法や規則を理解し、厳守できる。</li> </ul>
		2週	航海学演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の進め方を説明することができる。</li> </ul>
		3週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の進め方を説明することができる。</li> </ul>
		4週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の進め方を説明することができる。</li> </ul>
		5週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の進め方を説明することができる。</li> </ul>
		6週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の進め方を説明することができる。</li> </ul>
		7週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の進め方を説明することができる。</li> </ul>
		8週	船舶実務実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精度よく船位測定を行うことができる</li> </ul>
後期	4thQ	9週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・精度よく船位測定を行うことができる</li> </ul>
		10週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速に操練を行なうことができる。</li> </ul>
		11週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速に操練を行なうことができる。</li> </ul>
		12週	航海計器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磁気コンパスの自差測定及び自差修正ができる</li> </ul>
		13週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・電磁ログの調整並びにジャイロコンパス、オートパイロット及び操舵機の構成の理解及び取扱いができる</li> </ul>
		14週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・レーダ、GPSコンパス及びAISの情報の取扱いができる</li> </ul>
		15週		<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロ波の実験をとおして、レーダに使用されているマイクロ波の特性について理解できる。</li> </ul>
		16週	卒研発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容を分かりやすく発表することができる</li> </ul>

### 評価割合

	試験	レポート・課題	相互評価	成果品・実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	70	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	30	0	70	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0